

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（11月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。尾家に代わりまして今月から荒木が担当します。引き続きよろしくお願い致します。

さて、11月10日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷しているものの、持ち直しの動きが広がっている」として、前月までの判断を据え置きました。昨年12月からこの表現を使っておりますので、12カ月連続です。基調判断は変わりませんでした。今月も明暗入り混じった動きが見られています。まず、個人消費では、自動車販売がエコカー補助終了前の駆け込み需要の反動から大幅な減少に転じているとみられるほか、公共投資も、大幅な減少が続いています。一方、雇用環境は地域間のばらつきは残るものの、改善の動きが続いています。一部地域では、有効求人倍率がリーマン・ショック前の水準を超えています。これは、今後の個人消費にとってはプラスの材料です。住宅投資も下げ止まっており、設備投資も低水準ながら増加しています。下記に今月のプラス・マイナスの動きをまとめておきましたので、ご覧ください。

【プラスの動き】

- (1) 住宅投資に関して、居住用の建築確認申請（床面積）が増加しています。振れの大きな計数ではありますが、四半期でみると徐々に改善してきており、2四半期連続でプラスとなったこともあり、「下げ止まりつつある」から「下げ止まっている」に若干基調判断を引き上げました。
- (2) 雇用環境の改善が続いています。常用新規求人数が全体として増加傾向にあるほか、有効求人倍率も着実に改善しています。
- (3) 設備投資に関して、平成22年度の設備投資計画は、9月短観結果で上期・下期ともに前年同期を下回る結果となりましたが、毎月発表される非居住用の建築確認申請（床面積）はこのところ増加しています。

【マイナスの動き】

- (1) 個人消費は、自動車販売について足もとエコカー補助終了前の駆け込み需要の反動の影響がみられています。9月通算では前年比微増でしたが、エコカー補助終了後は大きく減少しているとみられます。
- (2) 公共投資については、各地域とも大幅に減少しています。減少幅は拡大しています。
- (3) 生産については、海外経済の動向などを反映し、持ち直しの動きが鈍化しています。

今後も、たとえば消費では、政策効果に伴う振れ（自動車における反動減のインパクトと持続性、家電におけるエコポイントの引き下げ・対象品目見直しに伴う駆け込み需要とその反動減のインパクト等）や雇用環境改善といった様々な強弱材料の影響がみられることが予想されています。それぞれの動きを丁寧にフォローしながら、的確な情勢判断に努めていきたいと思いをします。

先日、百寿大学で講義を行いました。60歳以上の現役を引退された方々や主婦など地域住民の方が、生涯学習の一環として様々なことを学ぶのですが、皆さん目が輝き生き生きとされていました。前向きな気持ちをもってチャレンジすることがいかに大切か、人生の先輩方から改めて教えていただきました。

旭山動物園も元気一杯です。冬期開園となる11月3日、旭山動物園に行ってきました。入園者数はさすがにブーム最盛期のときのようにはいきませんが、それでもインバウンド観光客を含めて大勢の人で賑わっていました。「空飛ぶペンギン」やアザラシ、ホッキョクグマなど動物たちは皆生き生きとしていて、アムールトラなど、怖いくらいの迫力がありました。動物たちが本来持つ能力を自然に引き出す「行動展示」方式の威力を実感した次第です。外部環境が厳しい中でも、絶対にあきらめない前向きな姿勢と創意工夫次第で新たな活路を切り開くことができるという見事な例が、旭山動物園だと思います。このようなチャレンジ精神、企業家精神を有する道北の人たちが、持てる実力を存分に発揮することで、道北地域の経済が更に活性化することを期待したいと思います。

平成22年11月10日

荒木 光二郎